

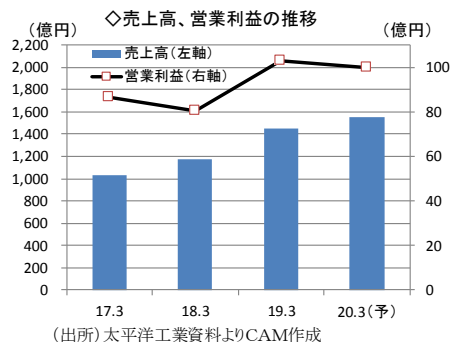
# 企業ニュース 太平洋工業

(東証1部：7250) <http://www.pacific-ind.co.jp>

作成者：奥村義弘

## プレス・樹脂とタイヤ・バルブが2本柱

1930年設立、自動車用バルブコアの生産を開始。1946年、自動車用プレス製品の製造を開始。現在は、タイヤ・バルブの世界トップサプライヤーとして知られる。同社のTPMS（タイヤ空気圧監視システム：Tire Pressure Monitoring System）は安全性の向上が求められる業界では成長商品として関心を集めている。18年8月には英国のセンサーメーカーの傘下にあったシュレーダー・グループの米国及びフランスのバルブ開発・製造と販売事業を子会社化、日本・アジア・北米・欧州の4極体制を構築。19.3期の売上高（営業利益）構成比は、プレス・樹脂製品69%（42%）、バルブ製品31%（58%）。



## プレス製品やTPMSの中期的な成長期待は高い

19.3期の連結業績は売上高が1,450億円、前期比23%増、営業利益が103億円、同28%増。プレス・樹脂製品は売上高が同21%増、営業利益が43億円、同109%増。増収効果や原価改善が、償却負担増を吸収した。バルブ製品は、売上高が同29%増、営業利益が60億円、同1%増。買収による増収効果やTPMS製品及び鍛圧製品の販売が増加したが、買収に伴う関連費用が発生し小幅増益にとどまった。

20.3期の通期会社計画は、売上高が1,550億円、前期比7%増、営業利益が100億円、同3%減。為替は1ドル=105円を前提とする。プレス・樹脂製品ではトヨタ向けにハイテン（高張力鋼板）材などの高付加価値製品の採用拡大により利益増が期待できる。バルブ製品ではシュレーダー・グループの買収効果やTPMSの拡販効果が期待できる。会社計画では、戦略的な設備投資増や買収による費用増などで減益を見込む。中長期的には買収事業のコストシナジーなどに期待できよう。またTPMS装着の法制化が進めば、中国市場などでの拡販にも期待できよう。中計では21.3期に連結売上高1,550億円、営業利益率8%台を目標としている。

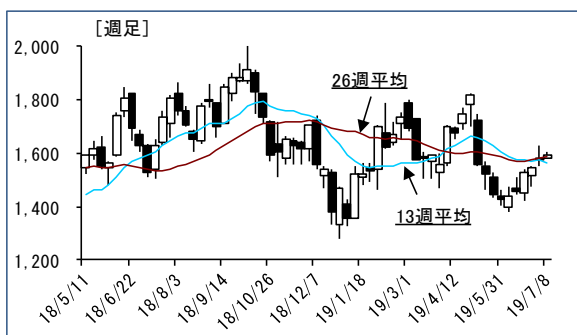
### [株価動向・投資判断]

世界的なTPMS装着の法制化の動きや、買収効果などから中期的な成長期待は高い。バリュエーションには割安感があり評価余地がある。

<7250 太平洋工業 業績：日本基準>

[今期予想の配当金は日経予想]

	売上高	営業利益	経常利益	当期利益	1株利益	1株配当
	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	円	円
18.3	117,758 ( 14)	8,063 ( ▲ 7)	9,485 ( ▲ 5)	7,393 ( ▲ 2)	123.5	28.00
19.3	145,030 ( 23)	10,307 ( 28)	11,767 ( 24)	8,730 ( 18)	144.8	33.00
20.3 予	155,000 ( 7)	10,000 ( ▲ 3)	11,000 ( ▲ 7)	8,000 ( ▲ 8)	132.6	35.00



[主要株価指標] (売買単位：100株)	
株価(2019/7/8)	1,591 円
年初来高値(高値日)	1,824 円(19/4/26)
同 安値(安値日)	1,324 円(19/1/4)
予想PER(20.3予)	12.0 倍
1株株主資本(PBR算出用)	1,590.1 円
PBR	1.00 倍
予想配当利回り	2.20 %
(1株当たり配当金年35.00円)	
ROE(19.3)	9.3 %
発行済み株式数	6,131 万株